

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 4月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	1176100343
法人名	株式会社ウェルフェアクリエイション
事業所名	ソレアド幸手
所在地	〒340-0113 埼玉県幸手市幸手3799-8 (電話) 0480-40-3911

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年4月2日

【情報提供票より】(20年3月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤 4人, 非常勤 23人, 常勤換算	19.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,500 円	その他の経費(月額)	15,750円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (157,500円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり1,575円				

(4) 利用者の概要(3月20日現在)

利用者人数	27 名	男性	9 名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	10 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低	64 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	優心会クリニック、本町歯科診療所
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅が点在している中に建てられた当ホームは、全体が明るくお菓子の家の雰囲気表現した外観である。建物の前には、利用者が耕すのにちょうどよい広さの畑が確保され、四季折々の野菜が利用者の手によって育てられている。野菜は利用者の食膳にのる楽しみもあり、のどかな生活ぶりが伺える。介護面については、主治医、看護師、職員との連携もよく、重度化された利用者の対応もされている。看取りについては、関係者と話し合い、利用者の状態を共有しながら終末期ケアが提供され、家族からも信頼をされている。また、一泊の温泉旅行に行くことも計画されており、利用者にとっては一番の楽しみとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で改善事項とされた「利用者の家族への報告やホームだよりの発行」は、検討はされているが実現には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価書の提出期間が短かったため全職員で検討するまでには至っていないが、フロアリーダーには検討してもらい施設長、事務員でまとめ整理されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヵ月に1度開催され、多数の関係者が出席しているが、検討課題が毎回同じようになっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が来訪した時、意見や気づきを伝えてもらうため意見箱を設置して対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議を活かし、自治会へ加入をしている。</p>

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の統一した理念と行動指針が1階入り口の玄関に掲示してある。長文の理念なので理解しづらい面がある。		できれば地域密着型サービスとしての理念も踏まえ、分かりやすい言葉で表現するように検討されることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝9時の朝礼時に、利用者、職員で唱和し、理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校の運動会を見に行ったり、小学生の介護体験を受け入れているが、自治会との交流は必ずしも活発ではない。		自治会行事に参加できるような体制作りをすることを期待したい。また、ホームで行事がある時など、自治会や老人会に声かけをしてホームへ招待することなども検討することを望みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、各フロア長を通して職員に知らせてあるが、今回は書類提出日の日数が少なかったため施設長と事務職員で纏めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所社会福祉課の担当者、家族会代表者、利用者、施設長、地区長、民生委員が参加して、2ヵ月に1回開催しているが、毎回内容の変化があまりない。		運営推進会議を活用し、ホームの諸問題や検討課題をホーム側から投げかけるなどして、話し合いで出た意見をサービスの向上に活かすことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に社会的援助(生活保護者)を受けている方がおり、市役所担当者にこちらから出向き連絡を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の定期的な報告の他、必要なときにその都度連絡しあっている。		さらに、利用者の日常の暮らしなど近況を伝えるために、ホームの「たより」を発行することも期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階事務所の前に意見箱を設置して、苦情や意見を受け付けている。意見等については内部で検討し、解決できるように努力している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者は止むを得ないが、離職後においては常勤職員で対応し、できるだけ利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修計画が立てられ実施されている。また、リーダーは本部で立てられた年間研修計画に毎月参加し、よりよい支援を目指している。職員もフロア会議時に多方面からの研修に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は今のところ全く取れていない。		職員の育成や日々のサービスに役立つように他法人の事業所と交流の機会を持ち、お互いに訪問したりすることで相互関係を築かれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を開始する前に、利用者と家族が一緒に見学に来て、ホームの様子や雰囲気を見て頂き、徐々に馴染めるような支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩という気持ちを忘れず、一緒に編み物や買い物などしている。利用者からは日常生活上の事を教わったりすることが非常に多くあり、学び支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本人の意向を把握して、利用者の希望をかなえられるようにしている。食事面では「パン、チーズ、乳酸飲料など揃えてほしい」と言う希望者が多く、要望に応じ購入して対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時にアセスメント(ケアチェック表)して、本人、家族、関係者とも話し合いをして介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回のフロア会議の中でサービス担当者会議を実施し、毎月介護計画の見直しをしているが、介護計画に反映していない。		毎月見直しをただけではなく、見直したものを介護計画に具体的に反映されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	以前より利用していた理美容院の利用や入退院の支援、かかりつけ医の通院支援など、その時々々に応じて対応している。入院者の洗濯物なども取りに行き、洗濯をして届けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医がいることを利用開始時に説明し、提携医が往診することの同意書を交わしている。入所前のかかりつけ医に通院を希望するときは通院支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、家族、主治医、職員と相談し情報を共有しながら対応している。終末期ケアについても検討しており、看取りについては実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴や排泄支援のときをはじめ、利用者への言葉かけ等に配慮している。また、プライバシーについてはホーム内研修も実施し、プライバシーの確保に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1週間の予定表はできているが、利用者の希望があれば入浴時間を変更することなど、その日によって支援内容の変更を柔軟にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体状態に合わせ出来ることはしてもらっている。季節料理、行事食、外食、そば打ち、環境を変えての食事など工夫をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回、10時30分～16時が入浴時間となっているが、希望の時間にも入浴できる。また、見守り程度の対応の方は、毎日でも入浴してもらうことが可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物希望がある場合は、ホームの車で出かけている。レストラン等への外食は年2回程、イベントも年3～4回ぐらい実施している。週1回月曜日にはお楽しみメニューとなっており、幅広くいろいろな面で支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望者だけではあるが日常的に散歩に出かけている。帰りには近所の農家から収穫された野菜など頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関から各フロアに通じるドアが、自動ドアになっているので、日中はスイッチを切り手動で自由に出入りできるようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の職員に来てもらい、利用者、職員とで避難訓練を実施している。近所の空き地を避難場所として借りているが、緊急連絡網の整理がされていないので整理され、目のつきやすいところへ掲示することになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者からカロリー計算されたものが配達されている。食事量や水分摂取量が低下してきている利用者のみ、日常生活状態と一緒にバイタル表に記入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアは広々としてゲームや運動ができるようになっている。周りには利用者の手作りした作品（書・折り紙・写真等）が多数貼られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使用していた椅子や整理ダンス、仏壇などが持ち込まれ使いやすいように配置されている。着替えの洋服などもダンスに収納品の名前を書き整理しやすいように工夫している。		